



「ナカトノカミ」?

そうだ
その者に
お前を捧げる



若葉家の人間は
ナカトノカミに
一度供物として捧げられ
生還した者だけが
「契約紋」を授かる



：お前の母は
成し得なかったが



ナカトノカミの
愛撫に
逆らわないこと

そして
ナカトノカミと
性交をしないこと



で?
生還の条件は?

……

冴
お前は強い

お前なら
生還できるはずだ



来た…







イ、イカされた…っ

フー

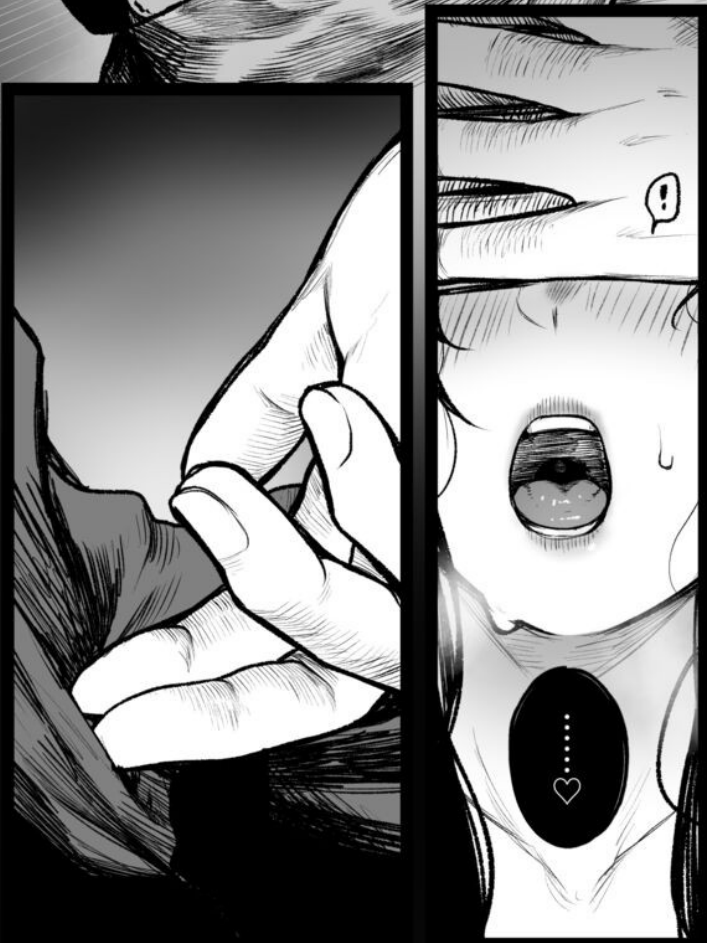
この私が…
こんなにも
あっけなく…っ



絶頂の余韻が長い…
ゆっくり絶頂し
続けているようだ

しかも
また一層愛撫が
優しくなった

決して強い快感は与えず
優しく繊細に
心地いい快感を
与え続けるつもりか…





ここにきて...っ
一番弱いところを...っ

今までにない程
子宮が熱い...
体はもう
これから子を
孕むのだと
思わされている

きん
きん

耐えろ...っ
こいつが...
飽きるまで...っ

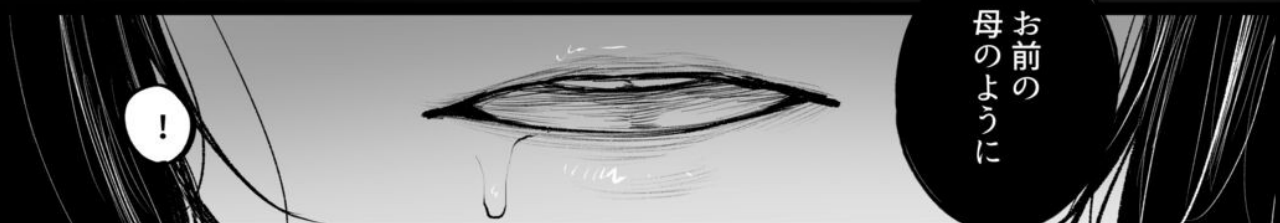
負け...







堕ちろ



お前の
母のように

!



消えろ

不愉快だ



…悪手だな



母も…

こうやって堕としたのか…



父の話では
45時間
私はあの蔵にいたらしい

あれから三年
数々の妖共を
奴隷にしてきたが

未だ
ナカトノカミを
殺すに足る者には
出会えていない

百年以来の生還者
私は契約紋を携え
遂に家業を継いだ

アレを殺すに至るまで
祓屋家業を
私は続けるのだろう



ちんぽ

ちんぽ

ちんぽ

ちんぽ

ちんぽ
ちんぽ

ちんぽ

ちんぽ

ちんぽ

ビッ

ちんぽ
ちんぽ
ちんぽ

け

生意気な態度で…
大変申し訳っ
ありませんでした…♡

どうか…
お恵みを…♡

卑しい雌豚に
おちんぽを…♡

パ

パ
ア
④



牙が
ナカトノカミに
屈服してから
永遠とも言える
時間が経過していく

絶え間なく
犯されていく中
悦び以外存在しない
時間を永遠に過ごすのだ

子宮はだらしなく口を開け
抵抗することなく
精子を受け入れる

女ですらなくなり
牝となった身体は
いづれナカトノカミの
子すら孕むだろう



母の仇であるはずの
ナカトノカミに
自ら腰を振り
媚びる姿は

あまりにも滑稽で
ナカトノカミにとって
都合の良い
性玩具に過ぎないのだろう